

みどりをはぐくむパートナー

まちとみどり

「とどけよう♡緑の絆」



特集

- 3 被災した玄界島への支援
- 1 福岡の名花名木
- 2 グリーントーク
- 7 グリッピーキャンペーン
- 9 緑のコーディネーターとは？
- 11 緑の活動支援事業のご案内
- 12 緑化助成のご案内
- 13 花と緑のまちづくり賞





玄界島 レスカの木

復興支援のシンボルとして玄界島に贈った「レスカの木」は、成長して確かに3種の実を实らせています。



島民が復興を願って植えられた
レスカの木。すくすくと育っています



平成20年4月、片江市民緑地
グリーンメイトの会有志・緑の
コーディネーター・園芸福祉ふ
くおかネット・防災関係者・緑
化推進課有志、総勢36名の方
が植樹に参加しました。
写真右が、樹木医の白石先生

1本の木に、レモン、すだち、かぼすの3種の実が実る。それが「レスカの木」です。樹木医・白石眞一先生の勉強会でその存在を知った緑のボランティアグループの人たちが、福岡西方沖地震で被災した玄界島の復興を願ってこの木を贈ることにしました。3種の実は、どれも魚の味を引き立てる柑橘類。だから漁業の島にふさわしいと考えたのです。「やがて特産品になれば…」そんな夢もこの木に託しました。

白石先生は育てていた苗木を50本提供。関係者が力を合わせて、玄界島に新しく建った一戸建て47戸すべての庭に、1本ずつ植えました。そのとき「名前があったほうがいいよね」ということで、「レスカの木」と命名したのです。

平成23年7月。植樹から3年を経た「レスカの木」は確かな成長を見せ、小粒ながら本当にレモン、かぼす、すだちの3種の実を实らせています。それは、緑がとりもつ絆の証。将来は島に「レスカの木」があふれますように。

冊子名称変更のご挨拶

当協会は平成22年12月1日をもって、公益財団法人として新たにスタートしました。

また、事業内容の変更に伴い、その名称も「福岡市森と緑のまちづくり協会」から「福岡市緑のまちづくり協会」へと変わっております。

このため、本誌の名称も「森と緑」から「まちとみどり～みどりははぐくむパートナー～」へと変更いたしております。

近年の地球温暖化やヒートアイランド現象、都市災害などの環境問題が深刻さをます中で、市民の環境に対する意識はますます高まってきております。

こうした中で、当協会は設立以来、本市の都市緑化の推進や公園等施設の維持管理・整備などに、緑の保全にかかる公的な専門集団として、公共性の高い事業を行い、市民の皆様の福祉の向上に努めて参りました。これからも公益財団法人として、さらなる公益事業の推進と、経営改善による収益事業の強化をすすめ公益法人としてふさわしい団体となるよう努力してまいります。

公益財団法人 福岡市緑のまちづくり協会
理事長 田代 政範

GREEN TALK

グリーントーク

癒しと畏敬の念を感じつつ、
自然とのあらたな出会いを求めて。



護国神社の社からみた福岡の街並み



油山の自然



(社)日本広告写真家協会 九州担当理事
東島 治男

「自然に振りまわされる」感覚がいい。

写真に興味を持ったのは、高校時代でした。大学で写真学部を専攻し、卒業後、写真スタジオに就職して以来現在まで写真の世界に身を置いています。これまで広告写真がメインで、ほとんどスタジオでモデルやモノを撮っていましたが、最近はカレンダー写真の撮影のために、九州一円、自然を求めて走りまわっています。しかし、手つかずの自然が残る場所は年ごとに少なくなりましたね。それで菊池、阿蘇、九重などの奥へ奥へと分け入っての撮影となります。

僕にとって風景写真を撮る魅力は、“自分の思うままにならないから”。スタジオで撮る広告写真なら、「このモデルにこの服を着せて、バックはこうして、ライティングはこうして…」と思いのままですが、自然相手では勝手が違う。それがいいんですね。しかも、同じシチュエーションは二度となく、行くたびに違う。そんなふうに“風景に振りまわされている”、“いつも新しい出会いがある”そういう感覚が僕は気に入っています。

自然の姿を留めたくて、全国の樹木を撮影。

自然の中に身を置いたとき、確かに「自然には人を癒す力がある」と実感しますね。僕が大好きなのは新緑の頃ですが、その瑞々しさの中にはどれだけ居ても飽きることがありません。また、たとえば朝陽が昇る瞬間を何時間も待ち続けるときなどは、真暗闇に、あるいは昇り始める瞬間の光に、まさに畏敬の念を感じます。

自然は本当にさまざまな顔を見せてくれます。その姿を残したいという気持ちがあって、全国の「古木、巨樹、奇樹」を撮り続けているんですが、それは仕事とは別で、趣味というか、ライフワークというか。天然記念物の樹木も、南は屋久島から北は青森まで240本以上撮りました。

梓の中にその姿を収めてしまうのが「写真」ですが、それを見るたびに撮影の現場、実際の自然が圧倒的な迫力で蘇ります。その感覚が、また新しい自然との出会いに向かわせるのだと、僕は思っています。

黄色の落ち葉のじゅうたんが印象的な銀杏の木



船上から撮影した玄界島

特集 被災した玄界島への支援

平成17年3月20日発生した福岡西方沖地震により、激しく被災した玄界島。避難した仮設住宅で、また玄界島で、さまざまな緑の支援が行われました。その取り組みを紹介します。
*はじめに、福岡で支援活動に携わった角銅さんと山崎さんに、お話を伺いました。

植物で癒しを届けたい。 仮設住宅にゴーヤのカーテン。

——緑化支援の経緯をお話してください

【角銅】被災された人たちは皆、九電体育館に避難されていました。私は「いてもたってもおられん隊」のメンバーとして、九電体育館で食事支援のお手伝いをしていたんです。1カ月ほどして、仮設住宅が「かもめ広場」に建てられることになったと聞いて、現場を見に行きました。そして、やはりコンクリートの岸壁ですからね。これは暑くなる、と思いました。夏の対策をしないといけない。「園芸福祉ふくおかネット」の方たちとも相談して、緑化支援として、ゴーヤを植えようということになったわけです。

【山崎】緑のカーテンで少しでも涼しくなればいいと、私も思いました。ゴーヤは4月末くらいまでに発芽させないといけないので、すぐに種を播かなければということで、角銅さんが所属している建築士会で種を買っていただいて、私たち「園芸福祉ふくおかネット」で発芽

させました。

——支援の費用、態勢は？

【角銅】「やる気応援事業」というのがあることを知り、申請しました。その助成金でプランターを400個購入したんです。土は造園組合から支援してもらい、ゴーヤの棚を作るために必要な竹は「グリーンヘルパーの会」から、また、水道の水を使うのは気が引けるという島の人たちの声に応じて、「NPO法人南畑ダム貯水する会」が、雨水を溜めるタンクを提供するというように、それぞれの協力があってこそでした。

【山崎】苗を植えたのは6月初めでした。角銅さんはさまざまなグループと繋がりがあるので進行役をお願いし、植え方は私たちが指導して、仮設住宅の人も一緒になって植えていきました。最後に、広場が憩いの場になるようにと造園組合の人たちが真ん中に木を植えました。角銅さんがおっしゃったように、皆の力の結集でした。一緒にすることによって一体感



角銅 久美子さん

が生まれましたし、その後もしばしば見に行っ
て徐々に交流ができていきました。

——どのような交流がありましたか？

【山崎】最初は料理教室でした。玄界島の人たちからゴーヤの食べ方が分からないという声がありましたので、料理教室を開いて中村大学の先生にゴーヤ料理の講習をしていただきました。玄界島の人からは伝統料理の「くじら飯」の作り方を教えていただいたりして…。「くじら飯」作りの名人という方がおられて、盛り上がりました。



当時の支援活動について熱く語る角銅さんと山崎さん

【角銅】帰島が決まったときのイベント「ありがとう、福岡」では、その名人の女性たちが中心になって、「くじら飯」を1,000食分も配られましたよ。「万一のときの炊き出しのための訓練も兼ねて」ということで、福岡市の防災関係と連携して市役所周辺の公民館で手分けて作ったということでした。

【山崎】ゴーヤの季節が終わっても、プランターに季節ごとの緑や花や野菜などを植える支援をしました。植物によって癒しを届けた、そんな思いでした。

全員帰島は3年後。 「レスカの木」で復興を応援。

——島民全員が帰ることができたのは3年後でした。それからの支援、交流については？

【角銅】住宅が完成したときも島に見に行きました。すると斜面が一面壁に見えて…。下はアスファルトで緑がないんですね。「これは何とかしたい。緑をふやしたい!」と思いました。

【山崎】幾つかの団体が一緒に行きましたが、それぞれに植樹することを考えたようでした。私たちは「レスカの木」の植樹を提案したんですが、桜の木を100本ほど寄贈した「福岡桜の会」もありました。

【角銅】「レスカの木」というのは、樹木医の白石先生（元九大教授）に教えていただいた「1本の木にレモン、すだち、かぼすの3種の実がなる木」のことで、島の復興のシンボルにするからと先生に厚かましくもお願いし、50本いただきました。当日は、参加者を募り、島の新しい一戸建ての庭にそれを1本ずつ植えていきました。3種の実はお魚の味を引き立てる名脇役ですから、やがては漁業の島の特産品になれば…と、そんなことを夢見て作業しました。

【山崎】ふれあい広場でのお昼も盛況でしたよ。島の人と合わせて200人もの人たちが参加して交流を深めました。帰りは、たくさんの人たちが見送ってくださって、私たちの思いが島の人たちに届いていると感じましたね。

公民館でのグリーン講座で 交流はさらに活発に。

【角銅】その後も山崎さんたちと一緒に、島の公民館でさまざまな講座を開きましたよね。新聞紙を利用した「エコポット作り」、クリスマス用、お正月用の「寄せ植え教室」、生ゴミ堆肥のための「ぼかし作り」など、とても喜んでいただきました。一つの活動からいろんな繋がりが生まれるんですね。それは今も続いていて、私の大切な宝です。

【山崎】「レスカの木」を植えに行ったとき、すでにヒマワリをいっぱい咲かせているお宅があったのでお話を聞かせてもらったんですね。そして次に島に行ったときにはもう、食事をご馳走になったりして…花好きはすぐに仲良くなるんですね。講座で島へ行くのが楽しみでした。

【角銅】帰島1年には「落葉樹を植えて海にもよい島にしたい」という島の人たちの願いに応じて、90本のオオシマザクラを植えるお手伝いもしましたね。今はもう自立への道を歩み始めておられますが、今後も必要とされるお手伝いができればと思っています。

それぞれの「何かしたい」を 花と緑でつなぎたい。

——最後に、「東日本大震災」の被災者への支援は何か考えておられますか？

【山崎】何かをしたいと思っても一人ではできませんが、誰かが声を掛けてくれたら参加できますよね。「園芸福祉ふくおかネット」としては、誰でも参加できること、必要とされていることを考えて、声を掛けていきたいと思っています。

【角銅】身近な緑や花を提供することも考えていきたいですね。室内に少しでも花があれば元気になります。成長を見るにつけ、生きる喜びも湧いてきます。そんな、気持ちを癒すお手伝いが花を通じてできればと思います。



山崎 博子さん



至る所に緑がある玄界島のニュータウン



震災復興後に植えられた記念樹



災害復興状況御視察行幸啓記念碑



細江 四男美さん



*お二人のお話の後で玄界島に渡り、平成23年4月から「玄界島 島づくり推進協議会」の会長を務められておられる細江さんを訪ねました。

緑の支援を励みに、 一致団結して復興へ。

——当時の様子は？

【細江】10人だけ島に残り、全島民がその日の夕方から深夜までに九電体育館に避難しました。私は漁業協同組合の役員でしたし水上消防分団員でもあったので、島に残りました。仮設住宅は玄界島にも100戸建てられま

して、そこで1カ月ぶりに家族と再会しました。嬉しかったですね。

——その後の活動は？

【細江】仮設住宅に入居した頃、島の将来を考える「復興対策検討委員会」（女性部、漁協など総勢27名）ができて、そのメンバーになりました。3年間で68回も会合がありましたよ。かもめ広場の仮設住宅にゴーヤのカーテンができたことなども知りました。女性部が中

心にやっていたようですが、緑のボランティアの皆さんの気持ちが有難かったですね。

——皆さん全員が帰島されてからは？

【細江】委員会が解散し、新たに「玄界島 島づくり推進協議会」ができて、その会長を今年4月から務めています。協議会ができた直後に、レスカの木や桜の植樹がありましたね。「この島を桜の島にしたい」とか「緑でいっぱいになりたい」などと思ってくださる気持ちに、と

玄界島復興支援活動

■ エコポット作り（平成20年9月12日）



玄界島公民館で「新聞紙を利用した保水性エコポット作り」の実技実習を行いました。集まった30名は6グループに分かれ、各グループに園芸福祉ふくおかネット

の指導員がついて指導しました。作り方は「新聞紙をちぎり、水に溶かしたセメントと色粉を入れ、植木鉢の型枠に入れて固める」というもの。皆さん、のみこみが早く、海にちなんだユニークな作品がたくさんできました。一人ひとり違った個性的な植木鉢は、CO₂も出さず、まさに「エコポット」です。

■ 寄せ植え講座（平成20年12月10日）



玄界島公民館で「寄せ植え教室」を開きました。皆さんに笑顔で迎えられ、また、花苗や土などを手際よく一輪車に積み込んで公民館まで運んでくださいました。そんな場面に接するにつけ、西方沖地震以来、島の方々と園芸を楽しむ私たちの間で花や緑を通してとても良い関係ができてい

ると感じる事ができました。寄せ植えは、ゴールドクレスを中心にした「クリスマス用」と、踊りハボタンを中心にした「お正月用」の2種類から、参加者に好きな方を選んでいただきました。暮れのあわただしい中、しかも天候の影響で急な呼びかけにもかかわらず、20名以上が参加され楽しんでいただき、私たちが大きな喜びを味わうことができました。



- 1 再整備した雁木段は避難時の最短ルートとして活用できるようになっています
- 2 災害の教訓を風化させないために、あえて修復に留めた頌徳碑群
- 3 震災で崩落した鳥居は保存されている小鷹神社
- 4 エレベーターにブリッジを連結した上下移動支援施設

でも励まされました。角銅さんや山崎さんのこともよく存じ上げています。警固公園で島の特産物を販売したときにも来ていただきましたし…。その後も公民館での講座など、女性部の活動で交流が深まっていったようです。本当にいろいろな方々に支援していただきました。——東日本大震災は人ごとではなかったでしょうね。

【細江】はい。ですからすぐに募金活動を行いましたね。島内でも、福岡の街頭でもしました。体験者としての教訓を伝えることも、この島でできる支援だと考えています。あまりにも規模

が大きいので軽々しくは言えませんが、地域が団結し、ふるさと再生の強い思いを持ってほしいと願っています。



整備された玄界復興記念公園で撮影に応じる細江さん

取材者紹介



角銅 久美子(かくどう くみこ)(左)

(社)福岡県建築士会監事。
「NPO南畑ダム貯水する会」副理事兼
「樋井川流域治水市民会議」代表ほか、防災士の活動に携わる。本業は建築設計事務所一級建築士。「人との繋がりが人生の宝」。

山崎 博子(やまさき ひろこ)(右)

「園芸福祉ふくおかネット」代表。緑のコーディネーター。退職し、緑の活動に関わって10年。「花が好き」が活動の源。花や緑を通して皆が元気になるべいいと、いつも願っている。

細江 四男美(ほそえ しのみ)(下)

漁業。一本釣りや素潜りで漁を行う。震災当時はたまたま友人宅に。震災後も他の9人と島に残る。今年4月から「玄界島 島づくり推進協議会」の会長を務め、現在も島の復興策を考える。

■ ぼかし作り (平成21年1月8日)



仮設住宅のゴーヤのカーテン以来島の方たちとの交流は続き、今回はぼかし作りに10人近くの方が参加してくださいました。

ブルーシートの上に糠を広げ水で薄めた微生物菌を撒き、みんなでモミモミ。お喋りもはずむ楽しい時間でした。

しかも手はツルツルです。ビニール袋に密閉して各自持ち帰り、2週間くらいして微生物の発酵で良い香りがしてくれば出来上がりです。生ゴミにきな粉餅のようにぼかしをシェイクし、それを土と混ぜれば1カ月ほどで生ゴミ堆肥に。島に生ゴミ堆肥作りが広がることを期待しています。そして、おいしい野菜が収穫でき、いきいきと力強い花が咲きますように!



10月は都市緑化月間です

グリッピーキャンペーン

「緑とふれあい、花と親しむ2日間。グリッピーの森へでかけよう」

2011

とどけよう♡ ^{みどり} ^{きずな} 緑の絆

入場無料

10/29(土)

花のまちづくり
シンポジウム

URC第6回都市セミナー
テーマ
「花の美しいまち福岡市をめざして」

10/29(土)

グリッピー絵本の
描き方講座

グリッピーの絵本を作ろう

GRIPPI
& GRIPPI Mates
福岡市東区中央公園

日時 10月29日(土)・30日(日) 10:00~16:30

会場 アイランドシティ中央公園 ぐりんぐりん周辺
福岡市東区香椎照葉四丁目

10/29(土)

- 緑の表彰式 10:00~10:55
- 花のまちづくりシンポジウム 11:00~12:25
- ありがとうの感謝フォーラム 12:45~13:45
- やってみよう! 自然あそび 11:00~15:00

同時開催 キッズフリーマーケット

主催 小さな福岡いい暮らし実行委員会

10/29(土)、30(日)

いろいろなイベントに
ぜひ参加してね!

- 花づくり
緑のドームほか
- 水と緑のフレンドシップ
展示とクイズ
- ハンギングバスケットで
お出迎え

花苗の販売
みどりちかまる
七重緑花の駅舎
元氣UPへともプロジェクト2011
in アイランドシティ~
花とね・チェーンソーアート

花づくり団体形態コンテスト
オープンカフェ等 飲食ブース



公園へのアクセス-西鉄バス利用

- 天神郵便局前バス停より 都市高速道路経由 (210, 22N)
- 博多バスターミナルより 都市高速道路経由 (29-N)
飛行場海岸経由 (29)
- 千早駅より 10/30(日)運行 香椎参道経由 (1)

※バスについてのお問合せ
西鉄お客様センター
0570-00-1010

お問い合わせ 公益財団法人 福岡市緑のまちづくり協会 ☎ 092-822-5832
(福岡市都市緑化推進実行委員会 事務局)



テーマ とどけよう♥緑の絆

会場 アイランドシティ中央公園

日時 10月29日(土)・30日(日)
10:00~16:30

10月は、都市緑化月間です。10月29日(土)、30日(日)の2日間、市民が緑に親しみ、緑のまちづくりに興味を持つきっかけづくりとして「とどけよう♥緑の絆」をテーマにグリッピキャンペーン2011を開催します。

会場は、アイランドシティ中央公園(東区香椎照葉)で、緑の表彰式、体験講座、花壇コンテストなど、一日中楽しめるメニューが盛りだくさん。

ベトナム料理やオープンカフェなどの飲食サービスもご用意しています。ふるってご参加ください。

10月29日(土)

- 緑の表彰式
- 花のまちづくりシンポジウム
- ありがとうの緑フォーラム…市内小学校4年生の「ありがとうの緑」発表会
- グリッピ絵本の描き方講座
- やってみよう!自然あそび
- 春の花植え

10月30日(日)

- 緑のコーディネーター体験講座
- 緑の探偵団…公園内の樹木に関するウォークラリー
- ハンギングバスケットのチャリティオークション

10月29日(土) ~ 30日(日)

- 花づくり団体による花壇コンテスト
- 花と緑のまちかど写真コンテスト入賞作品展
- 緑のドーム
- 水と緑のフレンドシップ展示・クイズ
- 花苗の販売
- みどりちかまる七隈線花の駅舎
- 緑黄戦隊カボレンジャー ヒーローショー
- こけ玉づくり
- ベトナム料理・ふかしいも・オープンカフェ
- 元気UP~花ともプロジェクト2011 in アイランドシティ~

昨年の
キャンペーンの
様子



ハンギングバスケットデモンストレーション



竹とんぼづくり



体験講座



チェーンソーアート



グリッピと



ありがとうの緑フォーラム



演奏会

緑

green coordinator

のコーディネーターとは？

こんなとき緑のコーディネーターをご活用ください。

市民と行政が共働して快適で美しい緑のまちづくりを進めるため、花や緑に関する知識や技術を持つ人を福岡市が認定し、市民が自主的に取り組む緑化活動を支援する制度です。

現在137人が認定され、「緑のコーディネーター」として緑のまちづくり活動や公民館・小学校などの自主企画事業の講師や指導者として活躍しています。



公民館で実施する花づくり教室の講師を探している



町内美化活動の一環で花を植えるので、選び方や植え方を相談したい



地域の公園で木に名札を付けたいので、木の名前を教えてください



町内の空き地を利用して、グループで緑化活動をしたいので活動計画のアドバイスをしてほしい



子どもを対象に木の実や葉っぱを使ったクラフトづくり教室をやるので教えてください



地域の子供達と一緒に花を植えたいので指導してほしい

緑

のコーディネーターになるには？

「福岡市緑のコーディネーター養成講座」を修了し、認定審査に合格する必要があります。

次回開講は平成25年度です。

受講を希望される方は、緑を通じたボランティア活動、地域活動などを経験されることをお勧めします。

■問い合わせ先

緑のコーディネーターの紹介・相談について
(公財)福岡市緑のまちづくり協会 みどり課
TEL:092-822-5832 FAX:092-822-5848

緑のコーディネーター制度について
福岡市住宅都市局 公園緑地部 緑化推進課
TEL:092-711-4424 FAX:092-733-5590

緑のコーディネーター紹介



魚谷 君子さん

魚谷さんが「緑のコーディネーター」になったのは平成17年、市民農園で家庭菜園を楽しんでいた時、新聞でその存在を知り、早速挑戦したのだそうです。「認定を受けた直後に近くの公民館からプランターの寄せ植えの依頼があり、これをきっかけに活動の場を広げることができました」と魚谷さん。現在携わっている団体のボランティアを紹介します。

- 園芸福祉ふくおかネット(東区アイランドシティ園芸福祉社の庭)
毎月1回(最終日曜の午前中)、ネットの仲間と雑草取り、花の植え替えなど
- こども病院(西区唐人町)
月に2~3回(毎月第1、第3の木曜 午後13:30~15:00・
毎月第2・第4の日曜 午前10:00~12:00)花壇の整備など
- 片江市民緑地グリーンメイトの会(城南市民センター、夫婦桜の丘)
毎月(第3水曜 午後13:30~15:00)花壇の整備、雑草取りなど

また「立花寺育苗センター」では種まきから鉢上げ(毎月第2土曜 10:00~12:00)、南区老司原の池公園「原の池を守る会」では、(毎月第1日曜)地域の方々達と花壇の整備、雑草取り、さらに「花のアドバイザー」として、鶴田小学校、老司小学校で春と秋に、花の植え替えを生徒と一緒にしています。

「花が好きで忙しいけれどやりがいがありますよ。たくさんの人との交流が出来ますし、ライフワークとして続けるつもりです」と話す魚谷さん。その表情はいきいきと輝いてみえました。

また毎年恒例の花壇コンクール(こけ玉作り・エコ鉢の寄せ植え・ハンギングバスケットなどもあります)を今年も楽しみにしているそうです。



みんなでワイワイ作業を行っています



南区鶴田小学校花壇整備の様子(2011年7月)

緑のコーディネーター紹介



林 康通さん 福岡市植物園ガイドボランティア、ボランティア団体「ふくおか花と緑の応援団」会長

南区の「国立九州がんセンター・憩い通り」で、桜を育てたり、四季折々の草花を植える活動を続けている「ふくおか花と緑の応援団」。その会長として活躍しているのが、緑のコーディネーターの林康通さんです。「もう丸10年になりますが、退職後「緑のコーディネーター養成講座(第1期)」を受講中に、ここの庭づくりとその保守、管理のボランティアのお話をいただきました」と林さん。「学んだことが実践できる」との気持ちで引き受け、「ふくおか花と緑の応援団」を立ち上げて、翌年(平成13年)から活動を開始したのだそうです。

活動の場は敷地の少し奥まった所、保育園前の約100mの通りで、作業は毎月2回、会員の皆さんと行います。「憩い通り」の桜並木は、活動開始の年に植えたもので、25種類、約90本の桜は樹高が4~5mにも育ち、美しい花を咲かせるそうです。「ここは特別な場所。患者さんやそのご家族、また医療に携わるさまざまな方に、四季折々に咲く花や緑に少しでも心を癒していただけたら…」それが林さんの願いです。

ほかにも植物園ガイドボランティア、昨年からの福岡市「舞鶴公園さくらまつり」のさくらガイド、城南区内の幼稚園の植樹の相談、桜の種類の同定、城南区役所での「種子からの花の苗づくり」運動などさまざまな活動に携わる林さん。「若い時から社会のお世話になってきた分、何かの形でお返ししたいと思って始めたことなので、できる限り続けていきたい。」と話してくださいました。



暑い夏の日差しの中、作業を行う林さん



珍しい桜の「楊貴妃」。その花の美しさは一見の価値あり

緑の活動支援事業

この事業は、市民のみなさんで結成された団体が自主的に取り組む緑化活動を育成・支援することにより、緑の普及啓発、地域の環境改善、地域コミュニティの形成などを図ることを目的とするものです。

地域の花づくり

市内にある公共用地や空地などにおいて花壇づくりを行う活動で、花壇などの面積が10㎡以上のもの

助成金	認定後5年間 年間1㎡あたり2,000円 上限20万円
	認定後6年目以降 年間1㎡あたり1,000円 上限10万円

地域の森づくり

市内にある樹林地などの保全管理を行う活動で、活動区域の面積が300㎡以上のもの。

助成金	認定後5年間 上限20万円
	認定後6年目以降 上限10万円



地域の花づくり活動団体「たんぽぽの会」

コンクリートの団地を花で満ちし、みんなの心を和ませたい！

活動を通じて広がるコミュニケーションの輪。



博多区堅粕地区の「ニュー堅粕住宅」は、1棟から9棟までの高層住宅が集めた大型団地。この広大な団地を中心に、「たんぽぽの会」の皆さんは“地域を花と緑でいっぱいしよう”と活動しています。

活動を始めたのは8年前。「コンクリートで囲まれた団地をきれいにし、みんなの心を和ませたい」と花好きの人が声を掛け合って、会を立ち上げました。団地内の公園、空き地、駐車場、街路地から団地周辺まで、花が植ええられる場所を見つけては、草をむしり土を耕しては花を植え…。思いが実り、今では四季折々、さまざまな花が団地を彩っています。「一人に渡す予算はわずかですが、みんなで種を分け合い、株を分け合い、お金をかけずに花を増やそうねと知恵を出し合っています」と、代表の石田さん。「きれいになったと喜ばれるのが嬉しい」「育てる楽しみがあり、愛着がわく」と、皆さんそれぞれに楽しみながら活動されているようです。女性中心の会ですが、最近では手伝う男性も増えているとのこと。活動を通してコミュニケーションの輪も広がっているようです。



なれた手つきで作業をする「たんぽぽの会」のみなさん



きれいに整備された花壇



かわいいミニトマトがなっていました

緑化助成のご案内

緑化助成事業

この事業は、建築敷地で生垣、壁面、屋上、駐車場などの緑化を行う方に対し、費用の一部を助成して、都市緑化の推進を図ります。

屋上緑化 1m²あたり助成金 **10,000円**



駐車場緑化 1m²あたり助成金 **2,500円**



生垣設置 1mあたり助成金 **2,500円**



壁面緑化 1mあたり助成金 **500円**

助成金の上限は30万円です



以下の条件を満たす方が助成を受けられます

- 助成の条件**
- ①市内の民有地にある建築物の所有者で、敷地面積が500m²未満であること
 - ②緑被率が敷地面積の20%以上になること
 - ③申し込み時に未着工で、年度内に完成すること

- 申請に必要な書類**
- ①助成金交付申請書(様式は協会に用意しています)
 - ②敷地面積が確認できる書類(建築確認済証の写しなど)
 - ③緑化計画図(植物名・本数・面積などが記載されたもの)

公益財団法人 福岡市緑のまちづくり協会 みどり課 企画推進係

TEL:092-822-5832 までお問い合わせください

申請書類は、ホームページからダウンロードすることもできます
<http://www.midorimachi.jp>

花と緑の まちづくり賞

花と緑のまちづくり賞 受賞者決定!

美しい花や緑のある風景は、私たちの目を楽しませ、潤いと安らぎを与えてくれます。

このコンクールは、緑豊かなまちづくりに貢献する事業所、店舗、住宅等の
緑化空間を表彰するものです。

今回より部門・賞のランクを廃止し、優れた「緑化空間」を顕賞対象といたしました。
受賞作品を紹介します。

花と緑のまちづくり賞



グランドメゾン百道浜 オーシャン&フォレスト



株式会社 未来図建設



くうてん・つばめの杜ひろば



梅田邸



我家の小さな通道

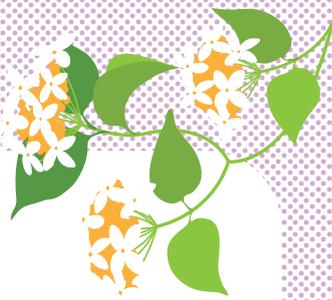
花と緑のまちづくり賞特別賞



前田邸

たくさんのご応募
ありがとうございました。





花と緑のまちづくり賞

受賞地名称	所在地
グランドメゾン百道浜 オーシャン&フォレスト	早良区百道浜
株式会社 未来図建設	南区野間
くうてん・つばめの杜ひろば	博多区博多中央街
梅田邸	東区香椎
我家の小さな通道	中央区今川

花と緑のまちづくり賞 特別賞

受賞地名称	所在地
前田邸	東区みどりが丘

第10回 花と緑のまちづくり賞 募集

「花と緑のまちづくり賞」は、福岡市内の花と緑によるまちづくりに貢献する緑の空間の事例を広く募集し、表彰するものです。

① 応募対象

花と緑によるまちづくりに貢献している緑化空間

- 福岡市内であること ●外部に公開されている民有地
- 過去受賞していないこと 自薦・他薦は問いません。

② 応募期間

2012年6月30日まで

③ 応募方法

応募用紙に必要事項を記入し、写真とともに、下記申込み先まで郵送または持参して下さい。(応募票は協会ホームページからダウンロードできます。また、区役所、市民センターなどにも置いてあります。)協会ホームページの入力フォームから応募することもできます。

④ 審査

一次選考(書類、写真による選考)及び二次審査(現地審査)を行います。

選考基準

- 設計デザイン ●緑化手法 ●周辺環境との調和 ●維持管理
- その他花と緑のまちづくりへの貢献

応募・問い合わせ

〒814-0001

福岡市早良区百道浜2丁目3番26号(福岡タワーセンタービル2F)

(公財)福岡市緑のまちづくり協会 みどり課 企画推進係

TEL:092-822-5832 ホームページ <http://www.midorimachi.jp>



あなたの気持ちと活動が
花と緑のまちづくりを支えています。

募金のお願い

福岡市都市緑化基金

福岡市都市緑化基金は、(公財)福岡市緑のまちづくり協会が運営母体となり、市民のみなさまや民間企業からいただいた寄付金や募金を積み立て、その利息を利用して、都市の緑化を進めるための基金です。



基金で取り組む事業

基金の運用利息を財源として民有地の緑化を推進するために、次の事業に取り組んでいます。

緑化助成事業

(民有地緑化の助成)

- ・屋上緑化
- ・駐車場緑化
- ・壁面緑化
- ・生垣の設置

緑の活動支援事業

(緑化活動団体の支援)

- ・地域の森づくり助成
- ・地域の花づくり助成

都市緑化の普及啓発

- ・花と緑のまちづくり賞
- ・「花と緑のまちかど」写真コンテスト
- ・グリーピングキャンペーン
- ・広報物発行等

募金協力のお願い

基金の募金箱は次の場所に設置しております。皆様のご協力をお願いします。

- 福岡市植物園(緑の相談所)
- 福岡市情報プラザ(福岡市役所1F)
- 福岡市役所緑化推進課(福岡市役所4F)
- 東平尾公園
- 舞鶴公園
- 福岡市緑のまちづくり協会本部(福岡タワーセンタービル2F)

寄付金の税控除について

「福岡市都市緑化基金」に対する寄付には、所得税、福岡市の個人住民税で、寄付をした翌年度の寄付金税額控除の適用が受けられます。(手続きなど、詳しくは、お気軽にご相談ください)

募金についての
お申し込み・ご相談は

(公財)福岡市緑のまちづくり協会 みどり課 企画推進係
TEL:092-822-5832

表紙の写真 平成17年3月20日 福岡県西方沖地震から復興した玄界島の風景

協会ホームページ

<http://www.midorimachi.jp>

〈編集・発行〉



公益財団法人

みどりをはぐくむパートナー

福岡市緑のまちづくり協会

Fukuoka City Greenery Association



〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目3番26号(福岡タワーセンタービル2F) TEL:092-822-5832 FAX:092-822-5848

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。

このみどりのたよりは福岡市都市緑化基金の運用基金により発行しております。